



Icerossは1986年に商品として完成し市場に導入されました。その後急速な勢いで浸透し、現在では下腿義足の懸垂方法として世界中で幅広い切断者に使用されるようになりました。

Icerossの普及は切断者が余暇活動などの幅広い社会場面への参加することを助け、そのような参加の広がりによってさらに義足の改善への要求が高められています。

このような好循環の中から技術的革新が進み、ゲル特性を持ったライナーやそれを用いた吸着式下腿義足が臨床場面において数多く使用されるようになりました。

国内においても、Icerossを用いた吸着式下腿義足については数多く用いられ良好な結果が報告されています。本稿では、吸着式下腿義足やそれに組み合わせるゲル特性の高いIcerossについて、その効用のキーである、可動域、可動性、快適性について確認していきます。

**義** 足装着者は様々な問題を抱えています。例えば、我々の皮膚は圧力を受けたり、

義足ソケット内のような密閉環境におかれたりするように生理学的にデザインされていません。ですから、切断者の多くは強い摩擦による不快感や擦過傷、接触性皮膚炎などを経験しています。また、動作中のピストン運動も切断者の痛みや不快感を引き起こします。

また、切断により血管やリンパ管の機能が途絶し、さらに周辺組織が圧迫されることでおこる浮腫や断端の腫脹も多く見られます。

このような問題に対してIcerossは有効であり、長期的にも効果の持続が期待できる解決手段として多く用いられてきました。さらに、ゲル特性に優れたIcerossと吸着式下腿義足の組み合わせは、適切な義足の適合や最良のソケット環境の提供という課題解決の新たな手段として注目されています。

Icerossとの組み合わせではピンやヒモなどの遠位での懸垂が従来から多く用いられており、現在でも多くはこの方式がとられ、良好な臨床結果を得ています。一方、Icerossを用いた下腿義足装着者層が広がっていく中で、いくつかの問題が遠位懸垂方法に対して挙げられるようになりました。